

田川市石炭記念公園のあり方の整理について（案）

1 趣 旨

田川市石炭記念公園（以下「記念公園」という。）内にある田川市石炭・歴史博物館所蔵の「山本作兵衛氏の炭坑の記録画並びに記録文書」が平成23年5月25日付で、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の世界記憶遺産に登録され、我が国の近代化産業の根幹を成す筑豊炭田の歴史的意義が世界的に認められたことを踏まえ、将来にわたる記念公園のあり方を整理するものである。

2 炭坑関連遺産等

記念公園のあり方を整理するため、記念公園内にある主要な炭坑関連遺産等を次のとおり抽出した。

(1) 有形文化遺産

ア 旧三井田川鉱業所伊田堅坑櫓及び同第一・第二煙突（通称：二本煙突）

※ 「九州・山口の近代化産業遺産群」関連遺産

※ 国登録有形文化財（建造物）（平成19年10月2日付登録）

イ 山本作兵衛氏の炭坑の記録画並びに記録文書（田川市石炭・歴史博物館所蔵）

（ア）炭坑記録画 585点

（イ）日記 6点

（ウ）雑記帳や原稿等 36点

※ 世界記憶遺産（平成23年5月25日付登録）

ウ 田川市石炭・歴史博物館内に所蔵しているその他の炭坑遺産

採炭・掘進・運搬等に使用された大型機械類、手掘りの道具等

エ 炭坑節発祥の地宣言の石碑、炭坑節発祥の地モニュメント、炭坑夫之像等

(2) 無形文化遺産

ア 炭坑節を始めとする採炭唄、選炭唄等の仕事歌

イ 炭坑節踊り

ウ 文 学

(3) そ の 他

ア 史跡指定に向けた取組状況

田川市を始めとする筑豊管内の市町村が連携を図りながら発掘調査を行い「筑豊炭田遺跡（群）」として史跡指定を受けることを目指しており、記念公園はその中心的役割を担っている。

イ 景 観（伊田竪坑櫓・二本煙突・ボタ山）

ウ 炭鉱遺構の復元（斜坑を含む）

エ 各慰霊碑

オ 産業ふれあい館

3 炭坑文化遺産の価値

炭坑文化遺産の価値をハード・ソフトの両側面から以下のとおり考察した。

(1) 有形文化遺産としての価値

記念公園は、筑豊随一の炭坑であった三井炭坑鉱業の跡地で、田川はこの地を中心に大きく発展を遂げてきた歴史があり、「炭都田川」と呼ばれるほど、筑豊炭田の中核都市として栄華を極めた場所である。

記念公園内にそびえ立つ二本煙突と伊田竪坑櫓は、現存する明治期のものとしては、国内最大級の規模を誇り、国登録有形文化財として登録されており、炭坑文化遺産の建造物としての価値は極めて高い。田川市石炭・歴史博物館は、石炭産業における歴史の変遷を理解する上で貴重な資料等を数多く有している。その代表が今般ユネスコ世界記憶遺産に登録された「山本作兵衛氏の炭坑の記録画並びに記録文書」であり、本市において受け継がれてきた炭坑文化遺産の希少性、重要性和併せ、筑豊における炭坑産業の意義が世界に認められたことを証明するものである。

(2) 無形文化遺産としての価値

「炭都田川」の発展に伴い、数多くの人が集まり、経済、生活、文化等の交流拠点として賑わい、独自の炭坑文化を形成した。

過酷な労働の中においても、人々は共同生活を営みながら互いを思いやる、いわゆる人情味のある気質が培われ、歌、踊り、文学といった数多くの無形文化遺産が生み出され、石炭産業を支える原動力となった。この代表的遺産が炭坑節であり、その誕生にあたっては、人々が坑内で歌った仕事歌が根源となっており、田川の無形文化遺産を象徴するものである。

この炭坑節は、筑豊炭田以外の産炭地へ広がり、これに併せ、炭坑労働者以外の人たちからも大いに好まれ、日本全国に歌い継がれ、ついには盆踊りの定番になるまでに至り、海外においても「コールマインソング」として、広く知れ渡っている。

炭坑節に歌われた煙突は、記念公園内に立つ二本煙突を指しており、世代を超えて歌い継がれているが、炭坑節から連想する伊田竪坑櫓と二本煙突の景観は、正に過去の歴史と現在をつなぐ炭坑のシンボルとして、郷土田川の人のみならず全国の炭坑労働者にとっての心の拠り所となっている。

(3) 文 学

田川には多くの文人往来で、中央の文化が持ち込まれ、思想や感情を物語る多くの文学作品が誕生した。記念公園内には「橋本英吉文学碑」や「種田山頭火歌碑」が建てられ、往時の文化を感じることができる。

また、当時の炭坑文化を継承する著書は多岐にわたり、筑豊を舞台とした「青春の門」、伊田堅坑櫓と二本煙突が歌われた炭坑節題材の「炭坑節物語」等、炭坑文化から波生した価値は高い。

※「橋本英吉」：プロレタリア文学者 炭坑作家（三井田川炭坑勤務あり）

※「種田山頭火」：漂流の俳人（ボタ山の句を数多く詠んだ）

4 記念公園のあり方の整理

田川の炭坑文化は、記念公園を核として有形的遺産に無形的遺産が附随していることが最大の特徴であり、これほどまでに、両面の遺産を兼ね備えた場所は、世界的に見ても他に例を見ない。この地は、炭坑閉山後も炭坑労働者の血と汗の結晶である生きた炭坑文化が深く根付いており、当時の息吹を感じることができる崇高な場所である。

我が国の近代化と戦後復興に多大な貢献を果たした先人たちが残した偉大な遺産を後世に継承する大いなる責任のもと、記念公園内を炭坑文化の誇りと情熱を肌で感じることができる場所、すなわち「日本の炭坑文化の聖地」として位置付け、日本の石炭産業史を牽引すべく高い志を持って、整備していくことが求められる。

5 今後の記念公園を整備するに当たっての視点

(1) 海外から多くの来観者を受け入れる視点

世界に誇れる炭坑文化交流拠点として、海外からの多くの来観者の受け入れを視野に入れ、「聖地」としてふさわしい整備の取組を推進する。

例) MOW記念碑

世界記憶遺産ミュージアム（仮称）（MOWビジターセンター）

景観形成（伊田堅坑櫓・二本煙突・ボタ山の眺望、建物デザイン等）

施設整備（案内・物販、駐車場等の施設の整備・配置のあり方）

誘導ルートの整備（観光教育ツアーの開発を含む）

外国語（英・中・韓）の表示

山本作兵衛記録画・記録文書の収蔵施設

(2) 筑豊地域の「炭鉱文化に係る教育観光」の中心地としての視点

「九州・山口の近代化産業遺産群」のビジターセンターの誘致も見据え、記念公園を筑豊地域の炭鉱文化に係る教育観光の中心地として位置付け、観光戦略の構築に

取り組み、地域経済の活性化に繋げる取組を推進する。

例) 交通ルート (巡回バス等)

情報発信 (Web、広報紙等)

展示物及び展示手法の見直し

誘導ルートの整備 (広域的な観光教育ツアーの開発を含む)

※活用部会との整理要

(3) 市民の「交流の場」としての視点

子どもから大人まで郷土田川の人が幅広く楽しめる身近な公園として、市民の地域アイデンティティを共有できる取組を推進する。

例) 交流空間

体 制

6 進捗管理

世界記憶遺産推進室と都市計画課が共同で、上記の視点を踏まえた、石炭記念公園整備基本計画の策定までの事務の進捗管理を行う。